



みんなが笑顔になるまち





みんなが笑顔になるまち 子育て

「食育 木育 花育」は子育て・教育の指針でもあります。命をとおして豊かな心を育むことが現代を生きる子どもたちに重要なことと考えます。充実した子育てができる環境づくりのために、さまざまな支援策を実施しています。0歳から中学生までのお子さんを対象に医療費を無料化する「医療費助成事業」のほか予防接種を無料（一部有料）。保育園に通う0～2歳児の保育料については国の定める保育料と比べて3～5割程度の負担で済むよう定めています。さらに3～5歳児の給食費は全額補助します。就学後も小中学生の修学旅行費用の全額補助、高校生に対し年間5万円の就学支援を補助する「はばたけふる里応援事業」など子育て世代の経済負担の軽減を図っています。

子育て支援は経済支援だけでなく、「心」の部分もサポート。妊娠から出産にかけては保健師による家庭訪問や健康相談のほか、育児期には年齢に合わせた健康診査を実施しています。

当麻幼稚園に併設した子育て総合センターは、子育て講座の開催や遊び場として開放し、親同士のコミュニケーションの場として活用されています。さらに妊娠前から子育てまで切れ目のない支援が行えるよう「子育て世代包括支援センター」を設置。専門的な知識を持つ職員を配置し、子育て家庭をトータルでサポートします。

また、当麻幼稚園の預かり保育や学童保育、さらに民間の保育園と連携し、子育て世代が安心して働ける環境づくりを進めています。



みんなが笑顔になるまち 教育

学校教育のねらいは、子どもたちが将来、社会の中で自立して、生き抜く力を育むことです。そのためには、多様な人との関わりを大切にしながら、主体的に学習に取り組む、確かな学力を身につけるとともに心豊かでたくましく生きることのできる資質・能力を育むことが大切です。

「知・徳・体」のバランスがとれた育成と、基盤となる教育環境づくりを進めています。

社会教育の役割は、変化する社会に対応しながら、個々の主体的な学びを育み、ニーズに応じて必要な支援を行うとともに、学んだ成果を生かすことのできる環境づくりを進め、活力のある地域づくりを進めていくことです。そのため、町総合計画に沿った社会教育中期計画を策定してその実現を目指しています。



みんなが笑顔になるまち 文化・スポーツ

心を育み、生活に潤いをもたらす文化活動。当麻町文化連盟をはじめとした町民有志による文化活動が活発に行われています。また最大の文化の祭典「生涯学習フェスティバル」は、誰でも文化活動に参加し、交流することができます。さらに美術鑑賞バスツアーでは町外で開催される質の高い芸術文化に触れる機会を提供しています。

生涯にわたってスポーツに親しむことは、健康増進とともに、明るく活力のある社会形成に必要不可欠です。当麻町スポーツ協会や、スポーツ推進委員会などが主体的に行う多様なスポーツ機会の提供、公民館主催のスポーツ事業など、我が町の充実したスポーツ施設を活用した活発な活動が行われています。



みんなが笑顔になるまち 福祉・医療

住み慣れた町で、安心して健康な生活を送るためには、医療・保健・福祉・介護などが緊密に連携し対応していくことが重要です。各種検診による病気の早期発見、重症化予防と健康意識向上に効果的な指導を行っています。

高齢者の方が自立した日常生活を送れるよう、さまざまなサービスと支援体制の整備を進めています。

障がい者福祉については、関係機関と連携、協議を行い、上川中部基幹相談支援センターを拠点に、相談業務や情報提供、就労や社会参加の支援を実施しています。

町立診療所は町のホームドクターとして、住民ニーズに対応した医療体制はもとより、病診連携、訪問診療、通院患者の送迎など、細かな医療サービスに努めています。

ハートフルタウン とうま

令和4年
新規分譲開始

空き家
中古住宅購入
住宅の除却・建替
最大350万円補助

対象／町民及び不動産、
建築事業者
要件／中古住宅除却後の
土地に町産木材を活用し
た住宅の新築等を行う事
補助額／中古住宅除却費
用の1/2(上限100万円)、
住宅の町産材費用250万
円を限度

ニュータウン
とうま
分譲中！



新築住宅への
町産木材活用

最大250万円
補助

対象／町内に住宅を新築
し、居住する方
要件／新築戸建専用住宅
(同時施工の車庫、物置も
含む)
補助額／250万円を限度、
建設に要する町産材各部
位の使用量に応じる

そうだ！当麻に住もう。

移住相談は当麻町役場まちづくり推進課(☎0166-84-2111)



「ここから」の1階交流スペース(左)と2階展示室(右)

とうまの歴史

当麻町の地名の由来は、アイヌ語の「ト(沼)・オマ(に入る)・ナイ(川)」です。大昔の当麻は石狩川、牛朱別川、当麻川、清水川などの河川の氾濫で、いたる所に沼や湿地があったと考えられています。

開拓

永山村に属していたトウマに開拓の鍬が下ろされたのは明治26年のことです。すでに用意されていた屯田兵屋は広さ16・5坪、土間と板の間の他に二間の質素な造りでしたが、ここを拠点に家族全員で開墾にあたりました。明治33年には永山村から分離して當麻村となりました。

消防組織の誕生

明治39年と43年の2度にわたって宇園別番外地が大火に見舞われました。これをきつ

かけにポンプが購入され最初の消防組織が誕生しました。

鉄道の開通

鉄道の開通は住民の切実な願いでした。當麻村でも、石北線当時は旭遠線が村を通るか、通らないかは大きな問題でした。天下を騒がせた分岐点争奪問題を経て、大正11年11月、待ちに待った汽車が當麻駅にやってきました。鉄道の開通は村に大きな活気を呼び、この年は開村30年式典に合わせて鉄道開通祝賀会が盛大に行われました。

激動の昭和

昭和の幕開けは不況とともに始まりました。第一次大戦後の不況で農家経済はひっ迫する中、追い打ちをかけるように凶作が襲いました。

また昭和4年には陸軍用地



大正15年完成当時の初代役場庁舎



石北線開通客車試運転



開洞当時の当麻鐘乳洞



開村30周年式典に合わせて鉄道開通祝賀会も行われた

終戦後の発展

千数百町歩が焼けるという大きな山火事がありました。火は9日間燃え続け、旭川第7師団と当麻全村が出勤して、ようやく鎮火しました。

昭和20年8月15日、太平洋戦争が終わりました。昭和21年、新憲法が公布され、当麻村も新たな村づくりへの一歩を踏み出しました。終戦から日本経済が高度成長を遂げた昭和30年までの10年間は、あらゆる意味で当麻村の基盤が築かれた建設時代と言っているでしょう。

村から町へ

昭和33年4月に町政が施行されました。これに伴い、「当麻」から「当麻」へ表記も変わり新たなスタートを切りました。この年は、中学

画期的な役場庁舎

校の完全統合、当麻小学校改築、当麻会館落成、当麻郵便局の新築、市街地区の道路舗装と、勢いのある町づくりが進められました。

初代役場庁舎(大正15年)昭和48年は、当時としては画期的な鉄筋コンクリート2階建て。現在は、郷土資料館「ここから」として生まれ変わり、豊富な資料により町の歴史を伝える他、コミュニティスペースが設けられ、交流の場にもなっています。



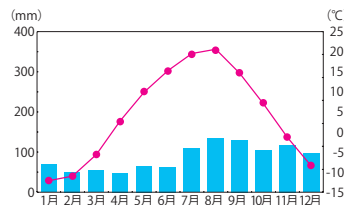
郷土資料館「ここから」
(当麻町4条南3丁目)
利用時間／10:00～19:00
火曜・年末年始休業(12/29～1/5)
入場料／無料

当麻町は、北海道の穀倉地帯といわれる上川総合振興局管内のほぼ中央、“北海道の屋根”大雪山連峰の麓、東経142度50分、北緯43度82分に位置しています。東側は山伝いに上川町、愛別町と、北側は大雪山系に源を発する石狩川に沿って比布町と隣り合、西は北・北海道の拠点都市旭川市に接しています。東西は17.3km、南北は13.5kmに及び、総面積204.90平方kmを有しています。

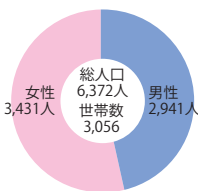
山と河川に囲まれ、南西部から北にかけては山林地帯を形成、自然の丘陵が起伏しながら大雪山連峰に連なっています。河川は、北側に石狩川が、また広大な町有林内に源を発する牛朱別川、当麻川が町の中央部を流れ、その流域に肥沃な平坦地が開かれています。地質構成は、平坦地の

大部分が埴質壤土で、石狩川に沿っては沖積土、砂質壤土となっており、丘陵地帯はおおむね埴質壤土です。東方面は礫壤土で、まれに火山灰地があります。

平均気温と降水量
(旭川地方気象台)



人口と世帯数
(令和2年12月31日現在)



土地面積の状況(令和2年1月1日現在、資料：税務住民課《土地概要調書》)

所有別	田	畑	宅地	山林	その他
面積	4,244ha	613ha	399ha	12,308ha	2,926ha
合計	20,490ha				



町章(昭和43年制定)

当麻の「当」を図案化し、星は屯田兵の開拓魂と未来への飛躍を意味し、また円は町の和と団結を表徴(ひょうちょう)したものです

町花：キク 町木：イチイ
(昭和57年3月制定)



当麻鐘乳洞
イメージキャラクター
「りゅうたくん」



でんすけすいか
イメージキャラクター
「でんすけくん」

当麻町民憲章(昭和47年6月6日制定)

わたくしたちは、当麻町民であることに誇りと責任を持ち、先人のたくましい開拓精神をうけつぎ、この憲章をかかげて、実践につとめます。

一 祖先をうやまい、楽しい家庭をつくりましょう
一 からだをきたえ、元気で仕事にはげみましょう
一 きまりを守り、たすけあいの心を育てましょう
一 文化を高め、明るい未来を築きましょう
一 自然を愛し、豊かな郷土をつくりましょう



<http://town.tohma.hokkaido.jp/>



<http://www.furusatohma.com/zenbuaru/>

facebook



<https://www.facebook.com/town.tohma>



<https://www.youtube.com/user/TohmaTownHokkaido>



Instagram



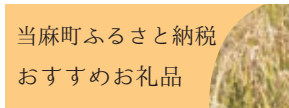
<https://www.instagram.com/towntohma>



Twitter



https://twitter.com/town_tohma



<http://www.furusatohma.com/>



Instagram



https://www.instagram.com/tohma_furusatonouzei

とうまの本

北海道当麻町 町勢要覧

発行／北海道当麻町

編集／当麻町情報発信戦略課

TEL 0166-84-2111

FAX 0166-84-4883

kouhou@town.tohma.hokkaido.jp